

# ヒヤリ・ハット事例

一般社団法人千葉県産業資源循環協会

2020.9.30までの回答分

## 外注作業その他

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	環状7号線 大谷田陸橋付近	自動車帰宅途中	内回りの左側車線走行中に、右側車線走行の乗用車が車線変更禁止場所にも関わらず、ウインカーも出さずに左折してきた。	マナー違反の車は数知れず多いので、脇見をせずに「かもしれない運転」を予測して運転する。		○			
2	千倉解体現場	長いC型鉄骨積み込み時	長物のため、コンボオペレーターに合図を出しながらの積み込みで、コンテナ上で合図をしていた際、積荷がコンテナに当たり、コンテナがずれてコンテナから落ちそうになった。	コンテナ上で合図では無く、コンテナの近くにステージ(脚立など)を置き、その上で合図を送るなどする。			○		○
3	現場パイプ養生の上	養生組み立て中	パイプをつかんでいる手が滑った。	手元・足元等の安全確認の徹底。(滑り止めのついた手袋を使用するなど。)	○				
4	工事現場	クレーン作業中	雨が降っていて、梯子をのぼっている時、足を滑らせて落ちそうになった。	足場を確認してのぼる。(梯子が濡れている場合は水気を拭いてからのぼる。降雨時は梯子にのぼらない。)			○		
5	路上	乗用車で客先へ移動中	運転中に考え事をして、訪問先に行く道を通りすぎてしまい、慌ててブレーキをかけたので、後続車同士が追突しそうになった。	考え事をしての運転はしないようにし、時間的にも余裕をもって行動するように心掛ける。	○				
6	現場	外で一時間近く荷積みをしていた時	めまいがしてふらつき、汗が異常にでた。	真夏の気温が一番高いときには長時間の作業はしない。			○		
7	いすみ市 学校給食センター	乗用車停車の際	場内の多数あるマンホールの上に、何も考えず停車してしまい、後に重量制限を確認したところ8,000kgだった。何事もなかったが、これが古い蓋や耐荷量1,000kg以下だった場合の事を考えると恐ろしい。	車両停車の際はなるべく何も無い所に停車する。どうしても蓋の上を通る場合や停車する場合は自分の目で耐荷重量を確認してからにする。	○				
8	井の頭自然文化園	管清掃をしている時	高圧洗浄車のメインホースとサブホースの操作を間違え、噴射ノズルが暴れた。周囲は広く作業も想定していたため、怪我や事故にはならなかった。	メインホースとサブホースの操作盤にはわかり易く表示があるが、間違いや見落としは誰でもあるので、必ず指差呼称を行い、細心の注意を払い操作すること。	○				
9	高速道路 保安帯内	客先が保安を設置しての高速道路の側溝清掃作業で、水分補給のために、保安帯内で休憩している時	高速道路内を自転車に乗り、酔っぱらったおじいさんが走行車線を逆走していた為、大型バスがクラクションを鳴らしながら、自車の真横で急停止した。	通常作業と違った場所では、いつ何が起こるか分からない為、先入観にとらわれずに安全確認と周囲の確認をする。また、自社で保安をつくる場合は、安全優先で保安帯の設置と余裕をもった誘導員の配置、声掛けを徹底する。		○			
10	吸引作業の現場	バキューム車にて吸引作業をしている途中	バキュームタンクの確認のため、吸引箇所から車両停車位置に戻ったところ、車両近くでホースを固縛していたロープがほどけていた。	一人作業で作業箇所からホースの全体が見えない場合には、作業前の養生確認に加えて、少し作業した後、不具合が無いか確認する。			○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
11	千葉街道	自動車通勤中	後続車両が左折専用レーンに入ろうとした際、前を走っていた自転車と接触しそうになっており、巻き込まれそうになった。	自転車運転中も軽車両を運転しているという自覚をして運転する。巻き込まれ防止のために、自転車についても車間距離を意識して運転する。		○			
12	船堀街道	営業車を運転中	前方に駐車していた車がウィンカーを点灯せずに、突然走行を始めたため、衝突しそうになった。	前方に車が停車していた場合、減速していつでも止まれるようにする。		○			
13	当方が駐車している月極駐車場内	2tコンテナ車の荷台に溜まった水抜きをしている時	前日の夜から豪雨となり、朝方には雨は止んだが、当方の2tコンテナ車の荷台に大量の雨水が溜まっていたので、荷台を少し上げて水抜きをしていた。水が抜けるまで地図でルートを確認をしていた。ルートの確認が終わり、水抜きで荷台を上げているのを忘れてそのまま発進してしまったが、ミラーですぐに気付いた。大事故になっていたかも知れないと思いヒヤッとした。	ながら作業をしまうと、片方を忘れてしまう可能性があるため、特に事故に繋がる危険性の高い作業をしている時は、他のことはせず、完結するまで集中する。	○				
14	自宅近くの横断歩道	駐車場から自宅へ徒歩で帰宅中	青信号で横断歩道を渡っている時、左折してきた車が当方の目の前を通過し接触寸前だった。	青信号で横断していたとしても、車から自分が見えていないかも知れないと思い、横断中も左右をよく確認する。		○			
15	国道296号上り前原付近	自動車通勤中	渋滞している反対車線の車がパッシングしてきたので、何かと思い減速したら、横断歩道のない所なのに人が出てきたので停止した。	渋滞している時は車の中から歩行者が出てくるかも知れないので注意する。また、逆の場合もあると思うので、その時は同じように知らせる。		○			
16	会社への通勤途中	右側から大型トラックが急に出てきた	接触しそうになった。	減速走行すること。		○			
17	分析室	蛍光灯を取り換え作業時	椅子に乗って取り換え作業を行った際に足を踏み外しそうになった。	ちょっとした高い場所でも梯子を用いて注意して作業を行う。	○				
18	ゴミ捨て場	試料を廃棄している時	周辺が暗く、転びそうになった。	ヘッドランプを付けて視界を確認する。安全が確保できない場合は、翌日の朝に廃棄する。	○		○		
19	分析室 実験台	シリンジで試料を分取中	シリンジが手に刺さりそうになった。	使用していないシリンジはカバーを付ける。シリンジの先端を自分を含め、人に向けない。	○				
20	分析室 流し台	洗い物をしている時	手が滑ってガラス器具を割りそうになった。	流しに不要なものを置かない。ゴム手袋を適宜交換し、滑らないようにする。	○				
21	地下ピット	地下ピットの掃除の時	階段から滑り落ちそうになった。	階段に滑り止めをつける。				○	
22	歩道	通勤中	後から来た自転車に不意に抜かれてびっくりした。	自転車の運転者は、前に行く歩行者をびっくりさせないように、車道を走るようにする。		○			
23	2階手選室前の不燃破砕機の前	掃除のため、フラットな床を歩行中	履いていた安全靴(右足側)の裏底が、爪先から土踏まずまで大きくはがれて、歩行中にめくれてしまい、前のめりになった。	靴底がはがれたら、すぐに新しい靴に替えること。履きなれているからと躊躇してはいけない。	○				

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
24	自宅近くの国道で	スクーター運転中	国道1号線の左側を走行中、前にいた軽自動車が出し、急に左にあるコンビニに入ろうとしたため、自分のスクーターが軽自動車に追突しそうになった。	前方を走る車両との車間距離を充分とるようにした。		○			
25	買い物に行く途中	スクーター運転中	信号のある交差点で、止まっている車の後ろで停車し、青信号になり、前の車が右折し、自分は直進して交差点に入ったところ、前方から右折してきた車と接触しそうになった。	相手運転手は自分の存在に気付いておらず、今後は前の車の後に発進する際、すぐに発進せず、前方の様子を注視して走行する。	○	○			
26	新坂呂橋交差点(小田原市小竹)	朝通勤時(自家用車)	T字路交差点を左折の為、方向指示器をつけて信号待ちをしていた。(前から2台目)青信号となり発進しようとしたら、左側のすぐ横の間近をバイクがかなりのスピードで通過して行ったのでヒヤリとした。	発進する際は、必ず左側を確認してから発進する。また、左折の信号待ちは左側に寄り、停車しておく。	○	○			
27	池のある庭園風の場所(千葉市内)	池の水質管理用薬品を散布した後の空き段ボール箱の処理の時	薬品(液体:5kg×3缶入り)の空き段ボール箱を潰すため、箱の底の粘着テープを指の爪を使ってはがそうとして際、爪の方が力に負け、生爪がはがれる感触を感じヒヤリとした。	年齢を経ると爪が弱くなっていく。もしこの時、生爪をはがしていたら、以後、数日はペンも持てないことになっていたかも知れない。粘着テープをはがすときは、カッターやへらなどを使用する。	○				
28	イベント会場	排水管洗浄中	炎天下作業で突然、足がついた。	熱中症になりかけたので、こまめに水分補給する。			○		
29	都内商業ビル地下5階汚水槽	清掃前に水切りと黒板を両手に持って歩いていた時	滑りやすい床面に注意をしていたが、足が滑って転倒しそうになった。	滑りやすい床面の時の道具の持ち運びの際は、片手は空けて、もしもの時にバランスが取れるようにする。	○			○	
30	地下道	管球を交換している時	消灯していた管球が常温と思い込んで、素手で取りはずそうとしたら、高温であわてて手を離れた。あやうく火傷するところであった。	管球は過熱していることもあるので、取り外す際は、必ず軍手を着用する。	○				
31	車道	社用車運転中	進行方向、左側コンビニ駐車場より、自車前方へ急に割込みされた。	他の運転者を信用しない。「かもしれない運転」を心がける。		○			
32	千葉県内商業施設	ビルピット清掃	入槽する時、指示金具に引っ掛かり、バランスを崩してポンプフロートを破損しそうになった。	ピット入槽前に、自分の導線に阻害するものがないか確認する。			○		
33	JR船橋駅構内	通勤中、電車乗り換えのためホームを歩き、下り階段へ差し掛かった時	ホーム上り階段側から、一見30代サラリーマン風の男性が急に進路を変えて、私と前を歩いている女性を突き飛ばして、ドアが閉まる寸前の電車に乗り込んでいった。下り階段付近だったので、転げ落ちてもおかしくない状況だった。	駅と電車内でのマナーが悪い人は日常的に目にするので、常に周囲を警戒する。東西線直通へ乗り換えられると自分が楽なので、間に合うように混雑の中を歩いていたが、直通に拘らず1本遅らせるなどして、混雑をさけるようにする。		○			
34	広告塔解体工事現場で	足場盛替え作業中	鳶工が杉丸太足場材を手運びで小運搬中に、安全帯をかけ替え忘れて、跳ね出し作業床で転びそうになった。	安全帯の架け替えは、必ず小運搬の作業前に行うように、KY活動でフットポイントの危険予知として励行し、慣れた作業に潜む危険性を認識する。		○			
35	舞浜交番付近	新人ドライバーの同乗研修	横断歩道で一時停止し、左右確認後、ドライバーが前進開始したところ、左後方より、ノンストップで斜め横断して来た自転車にニアミスしそうだったので、ドライバーに停止を指示して事なきを得た。	ドライバーへのKY指導。運転時は常に視野を広く持つように指導する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
36	船橋法典駅の横断歩道を歩行中	左右を見て駐輪場に向かっている時	おばさんが自転車でコンビニの方から、スピードを出して走ってきてぶつかりそうになった。	あわてず落ち着いて左右を確認して渡る。		○			
37	客先構内	新人ドライバーの添乗指導中	ドライバーが後方の確認不十分のままバックを始めた。	バック時は窓を開けて、目視での安全確認をしっかりと行うように指導する。		○			
38	職場から次の職場の移動の時	歩いている時	物の搬入場所で床が水やオイルで濡れていた。誤って滑り、思いきり頭を打った。	左右確認も大切だが、歩く足元もさらに確認する。 (床清掃の徹底や滑りにくい靴を履くなど)	○		○		
39	塵芥処理室	コンクリート床清掃中	通路に水、洗剤を撒いて清掃する時、人の往来があり、滑りやすい。	移動中は足元を確認する。 (滑りにくい靴を履く。清掃中は通行止めにする。)	○				
40	ゴミ処理室	仕事終了し、シャッターを下ろしている途中	話しかけられ、ちょっと目を離した時に、動いているシャッターの下を人がぐり抜けようとした。	話しかけられた時は、すぐスイッチを切って、シャッターの動きを止めて対応する。	○	○			
41	東京駅	エスカレーター下り(B1)	男性が駆け下りてきてぶつかり、前の人と倒れそうになった。	常に何かあると意識し行動、人との間隔を空ける。		○			
42	ダンボール室	カーゴテナーを移動させる時	ダンボールが崩れ事故の恐れがある。	ダンボールが崩れないよう、整理して積む。	○				

## 収集運搬

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
1	市原市 お客様店舗	ダンボール回収の際	集積場よりパッカー車へ持ち運んでいる時、視界が悪く横から来た車にひかれかけた。	視界が悪くなるほど量を持たない。左右の確認と、車が来ると思い行動する。	○				
2	山間部	走行している時	少し見通しの悪いカーブに差しかけた時、スピードを出した対向車がふくらんで、カーブを曲がってきたため、ブレーキをかけ事故にはならなかった。 後続車はいなかったため、追突もなかった。	スピードは控えて走行していたものの、もう少し速度を落としてカーブに進入するよう心がける。 常に「かもしれない運転」を心がける。		○	○		
3	市原市ちはら台南6丁目付近	運転中	大雨時、道路が冠水気味、片側2車線で斜め前方を走っている車が速度を出し過ぎ、水ハネで前方視界が2~3秒程失われた。	急ブレーキを踏もうかと思ったが、後続の車も近かったので対処に迷った。 車間距離と減速走行が大事。		○	○		
4	コンビニ駐車場	駐車場を出る時	駐車場を出る時、前方に1台車がいて、その車の後ろに並んでいた。前方の車が駐車場を出ようと前進した為、こちらも少し前進したが、急に前の車が後退してきて接触しそうになった。	このようなこともあるので、前方の車と十分な車間をあけること。		○			
5	現場工場にて	荷降ろし作業後、車両を発進させた際	スクラップ等の荷降ろし作業後、車両(平ボディ)周りの荷物を取り除いて発進した際、荷物が崩れてタイヤとあおりの間に巻き込まれたため、あおり表面に傷がついた。	荷降ろした荷物は、車両より極力遠くへ移動させ、可能であればあおりは閉じる。 または、第三者に付近の状況を見てもらいながら移動する。	○				
6	現場	運転中	靴の裏が泥で汚れていてクラッチペダルが滑った。	運転前に靴を拭く。	○				
7	片側一車線道路の横断歩道	横断歩道の手前で停止中	横断歩道を渡ろうとしている歩行者に車を停止して道を譲ったら、後続のバイクが対向車線に出て追い越しをしてきて、歩行者と接触しそうになった。	ミラーで後方を確認し、追い越そうとしている車両がいる場合は、クラクションを鳴らしたり、窓から手を出して停止を促す合図をする。		○			
8	国道6号線 新宿踏切付近	片側二車線道路の第二走行車線で信号待ちをしている時	発車しようとしたら、原付の配達員がミラーの下をくぐって行った。びっくりしてブレーキを踏んだので、後続車が追突しそうになった。	発車時は、前方側方の目視確認を徹底して行う。		○			
9	現場工場	車両をバックさせて進んでいた際	天井の高さが低く、車のキャビンが当たりそうになった。	天井の高さをあらかじめ確認する。車両グループ内での情報交換の徹底。			○		
10	車庫	トラックの乗降時	手に荷物を持って降車しようとした時、ステップを踏み外し、危うく転落しかけた。	乗降時は手に持っている荷物を置き、手すりにつかまって降車する。	○				
11	路上	右折で一般道に出る時	左側のミラーで確認して出た時、左からダンプが来るのが見えたが、思ったよりも車間が開いていなかったことでヒヤリとした。	ダンプが来るのが思ったより早かったので、ダンプを先に行かせた方が良かったと思う。	○				
12	国道16号	道路走行中	荷締め用のゴムが切れて積み荷が少しずれた。	経年劣化による事故で、定期的に交換の処置を図る。				○	

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動 (本人)	不安全行動 (他人)	不安全 状況	不安全 設備	重機 作業
13	千葉県船橋市	車を運転している時	西日がまぶしくて、信号機の色(赤色)が判らず交差点に進入しそうになり、慌ててブレーキペダルを踏んでしまった。	西日がまぶしい時などは、サンバイザー等を活用する。交差点付近はスピードを抑えた運転をする。			○		
14	自社駐車場	運転中	指定場所に車両をバックで入れようとした時、駐車スペースと車両の間に他の車両が通行した。	互いに合図等声掛けをすべきだと感じた。	○	○			
15	十字路	当方優先道路で京葉道路より資材センターへ向かう際	右側道路より車が一時停止せず走行してきた。	徐行しながら進入したから良かったが、優先道路とはいえ引き続き交差点は徐行する。			○		
16	都内の主要幹線道路	現場に向かって走行している時	ブレーキランプの切れた車両が前方を走行していて、その車両が急ブレーキを踏んだが、気付くのが遅れて接触しそうになった。	ブレーキランプ切れ等の危険な車両の後ろは走行しない。何かあっても止まれる速度と車間を維持する。			○		
17	一般道の交差点内	交差点で右折待ちをしていたが、対向車の流れが切れて右折しようとしている時	夜間に交差点を右折しようとしている時に、横断歩道右側から来た黒い服を着た男性に気付くのが遅れ、寸前で停車した。	横断歩道通過時は左右均等に確認するとともに、何かあってもすぐに止まれるように横断歩道手前で必ず一時停止する。			○		
18	現場ビル内の地下駐車場	駐車場に着車し、現場担当の方に電話連絡をしようとしている時	駐車場に着車し、エンジンが掛かった状態でギアも入ったまま、クラッチから足を離してしまっただが、フットブレーキを踏んでいたため、車両が飛び出すことはなかった。	駐車場内に着車したら、必ずエンジンを切り、誤発進がないように注意し、降車時もギア入れ、輪止めを徹底する。	○				
19	主要幹線道路の交差点	赤信号で青になるのを待っている時(先頭から3台目/AT営業車)	先頭から3台目で青信号になるのを待っている時、フットブレーキの踏み込みが甘く、少しずつ車両が前に進んでいたが、気付くのが遅れ接触寸前だった。	信号待ち等で長く停車する時は、フットブレーキだけではなく、サイドブレーキやシフトをパーキングに入れて絶対に動かない対策をとる。	○				
20	首都高速中央環状線扇大橋出口	積荷を積んだ状態で処分場へ荷下ろしに向かう途中	高速出口の下り坂を前車に続いて停車しようとしたが、自分が思っている以上に積荷が重く、停止距離が延びてしまい、前車に接触しそうになりヒヤッとした。 ※過積載ではなく規定の範囲内であった。	空車、実車にかかわらず、車間をしっかりと空けるのはもちろんのこと、特に実車時は積荷の重さで制動距離が変わることをしっかり認識し、通常時よりも多めに車間距離をとる。			○		
21	千葉県市川市新浜通り	現場に向けて自転車専用レーンが併設された一般道を走行している時	自転車左前方を走行していた自転車が路上駐車を避けるため、後方を一度も確認することなく自車の前方に出てきてヒヤッとした。	自転車専用レーンの設置されている道路でも、そうでない道路でも自転車は駐車車両や障害物を避ける時、後方確認せずに車道側に出てくることを認識し、自転車を追い抜く時は速度を落とし、距離を取って不測の事態に対応出来るようにする。			○		
22	幹線道路から入った市道の丁字路	丁字路を左折しようとしている時	丁字路を左折しようとしている時に右側から来る車両や歩行者が気になり、左側から来る自転車を見落とし、接触しそうになってしまった。	交差点や丁字路を右左折する時は、一方だけに注視する事なく、左右均等に確認し、絶対に見落としのないようにする。	○				
23	一般道で	信号待ちのため、停車している時	歩道を歩行していた自転車が転倒した。	走行時であれば接触事故の可能性があるので、追い抜きの際は徐行を心がけるようにする。			○		
24	八千代市村上付近	一般道を大型トラックで走行中	横断歩道自転車の信号無視。歩行者信号が赤になり、歩行者がいなかったか確認後左折しようとしたら、遠くからスピードを出した自転車が横断歩道に進入して来た。	今後も起こりうることなので、危険な場所として、その場所は通らず、迂回して目的地に向かう。			○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
25	都内走行中	大きい交差点で、右折レーン入り矢印が出たので、右折しようとした時	反対車線の車の脇から、バイクが信号無視して直進してきた。急ブレーキを踏んだ。	対向車をよく確認し、徐行して進む。		○			
26	一般道を走っている時	右折車線で右折待ちをしている時	対向車が通り過ぎ、右折しようと動き出したら、歩行者が運転席のピラーでちょうど隠れて認識が遅れた。	右折時は顔等を動かし、ピラー隠れが無いが、今まで以上に確認する。角度を変えて確認する。			○		
27	佐倉市王子台付近	40km道路センターライン黄色区間を走行、10tトラックを運転中	対向の大型トラックの後ろから、急にバイクが出てきて逆走、正面衝突しそうになった。	黄色区間だからと気を抜かず、「かもしれない運転」を続ける。同僚にもドラレコ映像を見せたりして、あり得ないシチュエーションが起こることがあると周知したい。		○			
28	片側二車線の国道	左側車線を走行中	片側二車線の左側を走行中、先の信号が黄色になったので、早目の減速をし安全に止まれる距離だったが、右側車線の乗用車が急に左車線に車線変更して来たので、強めのブレーキで追突を回避した。	車間距離を保ち、安全に止まれる距離で走行し、常に割り込まれることも予測した(かもしれない運転)で事故を回避する運転を心がける。		○			
29	東京外環自動車道 外回り 外環三郷西IC	東京外環自動車道 外回り 左車線走行時	外環三郷西ICで降りる車で渋滞していて、その列は本線の路側帯まで伸びていた。自分は左車線を走行していたが、三郷西で降りたかった車が追い越し車線から自分を追い越し、路側帯に並んでいた車の途中で割り込みをした為、その車は本線左側で急ブレーキをかけた。追い越し車線も車が途切れなかった為、自分も急ブレーキをするしかなかった。	どんな車が、どんな運転をするかまで予測は出来ないが、前方のみならず、後方含め、常に周りを意識して運転する。		○	○		
30	国道16号 柏付近	工場へ帰社途中	交差点で信号が青になり発進した際、帰宅途中の小学生が道でふざけていた時、道路へ飛び出してきた。	信号が青でも、周りを良く見て、特に小学生、自転車に乗っている人を見かけた場合は、飛び出してくるかも知れないので、細心の注意をとること。		○			
31	片側2車線の一般道で	渋滞で停車している時	前方の車が進んだ時、一瞬目を離れた時に前方の車がブレーキを踏んだ。すぐに気付いてブレーキを踏んだ。	渋滞時は、いつ前方の車が止まるかわからないので、絶対に目を離さない。	○		○		
32	高速道路で	渋滞中に	スマホを見ている乗用車が蛇行をしながら走り出した。	近づかないで車間距離をとる。		○			
33	千葉北IC出口	16号に合流する時	千葉北IC出口右車線から、急に左車線に合流してきた。	急に車が寄ってくることを想定して走る。		○			
34	296号	四街道IC方面に向かっている時	対向車が左折待ちしている後ろから、その車を追い越そうと目の前に飛び出してきた。	左折待ちや停車中の車の脇を通る時は、スピードを落としたり、徐行するなどして走行する。		○			
35	片側2車線国道	左車線走行時	前の車が突如、歩道に乗り上げ、壁にぶつかりバンクしてしまい、急に停車した。	予想もしないことが起きるかも知れないので、より一層の車間距離を保持する。		○			
36	鹿島市内 県道片側2車線	走行中	左側路地から、一時停止せずに進入してきた、急ブレーキを踏み回避した。	交通ルールを守らないドライバーがいるということを頭に置き、危険予知をし運転する。		○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
37	高速湾岸線下り幕張PA内	休憩しようと思い、駐車場にバックで入ろうとした時	同じ場所に頭から入れようとした車と接触しそうになった。	高速のPA、SAの駐車場でトラックを駐車する時は、なるべくバックで入れるのではなく、頭から入れるようにする。			○		
38	高速道路中央道上り方面に調布入口から入った時	料金所ETCレーン通過直後に右方向の東京方面へ向かおうとした時	左側よりかなりのスピードで乗用車が自分の車の前に出て来て、危険を感じた。	周りの車の動きに注意して、ランプ等のサインにもしっかりと気を払う。		○			
39	片側2車線の国道	大型車両で走行中	ウィンカーを出さずに車線変更した車両と、すり抜けをしてきたバイクが接触しそうになった。	ウィンカーを出す。サイドミラーで後方確認。すり抜け走行をしない。		○			
40	回収先	廃油回収作業	床が油で汚れていて滑りやすくなっており、危うく転倒しそうになった。	作業場所の足元の確認(床等)を行う。汚れていたり、滑りそうな時はウエス等で汚れを取る。			○		
41	会社から車庫までの区間	車庫に帰るまでの走行時	信号の無い見通しの悪い交差点で、自分は本線走行時、左側は一時停止がある場所で、2tトラック車は一時停止せず、本線の車両確認もせず、飛び出してきて接触しそうになった。	見通しの悪い交差点だとわかっていながら、すぐに止まれる速度ではなかったため、必ず徐行する。	○	○	○		
42	食品製造工場(客先)	廃プラ荷積中	床が粉まみれで、滑りやすく、転倒の恐れがあった。	しっかり足場を確保のうえ、積込み作業をする。決して焦らず、無理な体勢で作業しない。			○		
43	船橋市場通り交差点	右折しようとしていた時	対向車線の後方から、センターラインが黄色にもかかわらず、原付バイクが右側を逆走してきて、車の前を横切り、前に入った。	センターラインが黄色だからと、左側の巻き込み確認だけでなく、右側の後方確認もミラー目視してからしっかりと行う。		○			
44	鎌ヶ谷市稲荷前交差点	一方通行出口の交差点	信号が青になったので進行した時に、右側から信号無視の車両が進行してぶつかりそうになった。	自身の信号を常に確認して、周囲を見渡し、常に判断を怠らないようにする。		○			
45	浦安鉄鋼団地	信号機の無い交差点を右折しようとしている時	前の車に続き、一時停止をして、右方の確認をしながら、ゆっくりと前進したが、駐車車両で視界が悪く、右方の確認に集中し、右の安全が確認できたので、前進しようと前を見たら、何らかの理由で前車が停止していて追突しそうになった。	一時停止の停止線を越えた後も、前方の安全が確認できるまでは前に進まない。左からの逆走の自転車が来る可能性もあるので、右方だけに集中しすぎない。	○		○		
46	南行徳	可燃ごみ収集箇所移動中	見通しが悪い道路に出ようとした際に自転車と接触しそうになった。	左右の安全確認の徹底。確認の際に道路上に体を出し過ぎないようにする。			○		
47	鬼高で	収集作業中に	収集車と壁の間に歩行者がいる事に気づかず動き、作業を止めた。	動く前に、前後確認をして声をかけることを徹底する。	○				
48	交差点	急カーブ先の見通しの悪い信号機のある交差点を直進中	急カーブを越え、赤信号だったのでブレーキで減速中、青信号に変わったのでアクセルを踏んで加速した時、交差点左側のフェンスと街路樹で死角の多い歩道から、自転車が信号無視で横断してきた。	死角には何が隠れているか、急に何か飛び出さないか意識を向け、交差点通過時は、フットブレーキに足をのせて、すぐにブレーキを踏めるようにしておく。		○	○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
49	行徳街道	ビン缶回収車運転時	行徳街道を行徳橋方向に走行時、川沿い方面へ向かうため、コカ・コーラ工場先を左折しようとした際、左ミラーバックモニタに確認できなかったロードバイクが左側を走りぬけていった。	当方はスピードもかなりおとしていたが、ロードバイクは音もしく、かなりスピードも出るので、より一層の注意が必要と認識すること。		○	○		
50	江戸川区篠崎町	車を運転中	信号のない交差点で自車が直進しようとしたら、対向の大型車の影から、男児が横断してきた。	どんな時も「かもしれない運転」をする。		○			
51	鬼高小学校付近	ゴミ収集をしている時	ゴミを収集車へ入れる為にゴミ箱から収集車へ体を動かした時、自転車が自分と収集車の間を通り抜けていった。	動く前に目視確認と、複数人での作業時は互いの確認と声掛けをする。		○			
52	国道254号線小川町付近	花園寄居方面へ走行中	交差点を過ぎたT字路から、乗用車が一時停止を無視し、自車の前に出てきた。	交差点を通過してすぐのT字路なので、信号と歩行者の確認だけでなく、その先前方までしっかり確認する。		○			
53	信号機のある交差点内	左折を始め、半分ほど行った時	後から来た対向右折車が、途中から反対車線に入り、斜めに右折を始め、自車の前へ割り込んで曲がって行ったので急停止した。	左折を始めた時には対向右折車はまだいなかったが、飛ばしてくる車が来るかも知れないと思っていた方がよい。		○			
54	外環道内回り戸田西IC付近	運転中	追い越し車線を走行中、対向車線の方から右かが何かが飛んできて、フロントガラスに当たった。	なるべく追い越し車線を走行しないようにする。			○		
55	国道254号線花園方面から嵐山方面に走行中	産業廃棄物を収集運搬中、処理場に向かう交差点を右折しようとした時	交差点を右折ラインに停車中、対向右折ラインにトラックが停車していた。対向直進車を数台やりすごし安全を確認し、自車を発進させようとした時、横をキャリアカーが通過した時に、大きな音がしたので発進を一瞬ためらい、発進を遅らせたところ、対向直進車が目の前を通過した。	自動車の運転中にはいくら注意していても、何が起きるか分からないため、突発的に何か起きた時でも、一呼吸置き、もう一度安全確認を行う。心に余裕を持てる運転を心がける。			○		
56	鎌倉高校前付近の134号線	燃料チップ搬出時、大型トラックで湾岸道路を40～50km/hで走行中	前方左側に自転車が2台縦列に走行していた。それに追いつき、追い越そうとしたが、道幅が広くないので、後につき対向車の切れ目を伺いながらゆっくり走行していたら、自転車が急によろめき、中央寄りに出てきたのでヒヤリとした。急ブレーキで回避し、接触無し。	自転車が走行している際、間隔を十分取り走行する。近寄らない。		○			
57	千葉県内市町村クリーンセンター	軽トラックの荷台に南京締めをにかけている際	紐をかけている際に、足元に紐が散乱している状態で、次の箇所に引っ掛ける際に、足が紐にすくわれて転倒してしまった。	紐をそこら辺に置かず、台の上などにまとめて、足を引っかけてしまうような状態にしない。	○				
58	新木場近くの交差点	搬出に向かう途中	交差点、左折した際、内側にいた乗用車が左折後にいきなり合図無しで割り込んできた。	予想・予測、運転に集中することが大切である。		○			
59	施設構内	車を運転している時	横断歩道で歩行者が渡るのを待っていて、渡りきったと思い進もうとしたら、横断歩道のない場所から歩行者が出てきてヒヤリとした。	左右の確認をしっかりとる。		○			
60	行政クリーンセンター出口付近	4tアームロール車で浦安CC敷地内から一般道へ出ようとしていた時	歩道の右方向から歩行者が来るのが見えたが、距離もあり十分行けると思い前進したところ、植込みの陰から小さな男の子が飛び出し、急ブレーキで停車した。	歩行者優先の意識が足りず、歩行者を認識しながら先に行こうとした。植込みの陰等、死角に対する注意が足りなかった。	○	○			

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
61	イベント会場 バックステージ	運転中	横断歩道で急に走って飛び出してきた。	一時停止の徹底、指差確認の実施、KY実施。		○			
62	R357上り線 舞浜立体手前 の分岐点	左側車線から側道へ 入ろうとした時	前方を走っていたバイクが、右車線から急に左車線、側道へと割り込んできた車両に巻き込まれそうになった。	無理な割り込みは絶対にしない。		○			
63	首都高速入口 交差点	高速進入しようとした 時	自転車が目の前にきた。	自転車はどう動くか分からないので要注意。		○			
64	江戸川区船堀 橋下荒川土手	片側一車線の道路 で信号待ちをしている 時	発進したと同時に対向車の運転手が降りていて、急に車道に飛び出してきた。	急に人や自転車など、死角から出てくるかも知れないと思い運転する。		○			
65	商業施設	廃プラ回収時	ゴミ庫内の床に、ゴミの汁がこぼれていて、すべてで転びそうになった。	床にゴミ汁がこぼれていたなら、モップや雑巾で拭いてから作業する。滑らないように慎重に歩く。			○		
66	東京都品川区 南大井	運転中、信号ありの 交差点で直進方向 に進んでいる時	左側から本線に自転車が目視もしないで突然飛び出してきた。	直進中で信号が青でも、左右からの自転車・バイク・歩行者などの飛び出しが「～かもしれない」と心がける。		○			
67	江戸川区篠崎 第4小学校交差 点	一方通行方面に交 差点を右折しようとし た時	一方通行道路を逆走してきた。	確認後も「かもしれない運転」で徐行して右折する。		○			
68	蔵前通りから両 国への途中	走行中	おばあさんが信号無視をして道を横断した。	横断してくる歩行者・自転車がいるかもしれないと思って運転する。		○			
69	西神田交差点	現場に向けて走行中	西神田交差点の左折可レーンを通過しようとしたところ、逆走した車両が通過して行った。	交差点を通る際、周囲の確認を徹底してから通過する。		○			
70	日本橋人形町 の交差点	信号機がある道幅が 狭い交差点を直進中	信号機を無視した自転車が左側から右側方向に出てきた。	交差点付近では歩行者、自転車等が出た来るかもしれないと予測しながら運転する。		○			
71	葛西臨海公園 前交差点	渋滞で徐行している 時	片側2車線の右折後、Uターン路の合流地点にて左車線から強引な割り込みを意識していたら、Uターン路の方からも小型バイクが合流してきて、徐行の状態だったので、ブレーキが間に合ったがヒヤリとした。	渋滞中は周りも予知できないようなことをするので前方と左右のミラーの確認はこまめに行い、無理な車線の変更には距離をとって運転するようにする。		○			
72	品川区南大井 桜新道交差点	ゴミ収集の時	直進の歩行者用の信号が青になったので車を発進させようとアクセルを踏もうとした時、横断歩道を自転車が横切ったので急いでブレーキを踏んだ。	歩車分離式信号機だと認識していなかった。走行ルートをよく確認し、車と人の信号を確認して行動する。		○			
73	ホライゾン(廃 棄物回収現場)	パッカー車で回収が 終わってベースに帰 ろうとしていた時	左ウィンカーを出し、白線のうちから走路に出ようとしていた時、左ミラー30cm位のところを顧客の従業員が視界に入り、目線が合った。動き始めたところだったので、びっくりして停止した。	左ミラーだけでは良く見えないし、エンジンが動いてハザードをつけていても、車体ギリギリのところを歩いていく人も多いので、全方向の目視をしてからゆっくりと発進する。	○	○			

## 中間処理・最終処分

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
1	廃棄物受入ヤード	受入れ検査をしている時	スマートフォン、電子タバコのリチウムイオン電池を含む廃棄品を発見した。破砕機工程相当の破壊テストをしたところ発火した。	リチウムイオン電池を破砕機で破壊すると火災につながる可能性が高いため ①サーモカメラによる警報システムを導入し、発熱した時点で検知する。 ②火災メカニズムを教育し、チームで火災を未然防止する消火訓練の実施。 ③排出元への分別依頼の実施。		○	○		
2	破砕機(ジョークラッシャー)室内	鉱さいを破砕処理中、異物混入で異常音がしたため、クラッシャー停止ボタンを押し、異物を取り出そうとした時	惰力で回転中であつたが、何の異物が挟まっているか気になり、中を覗いてみた時に、回転が停止する直前に鉄の塊が、上部に跳ねてヘルメットをかすめた。	クラッシャー内で、破砕された物は下に落ちるが、鉄のような塊が噛みこんだ時は、上に跳ね上がる時があるため、回転中は近寄らない。 ”直ちに全員に教育周知した” 厳守事項「回転中の立ち入り禁止」	○		○		
3	工場内	持ち込みのお客様の荷降ろしをしている時	混雑していて車に当てられそうになった。	慌てずに周りをみて動くようにする。			○		
4	工場内	工場内を歩いている時	通路に出ているダンボールの番線が見えなくて顔に刺さった。メガネをしているので目に刺さらずにすんだ。	通路に置くような製品は番線を折り曲げる。 製品の近くすれすれを通らない。			○		
5	営業所内荷捌場	荷降ろし作業中	フォークリフトにて木製パレットを荷台から荷降ろしの際、舗装面に凸凹があつたため、フォークリフトが揺れてパレットが落下した。車両のドアが損傷した。	作業場所の点検を毎日実施し、不具合があれば早急に補修工事を行う。今回の事例を安全会議で全員が共有する。				○	
6	処理センター	台貴上でダンプを上げた状態の写真を撮った後	ダンプを上げたまま次の作業に移動しようになった。周りの職員が気づき、注意をされて気づいたので大事には至らなかった。	注意力を欠いていた。 また、ダンプ上昇時のブザーが壊れているので早急に直す。	○			○	
7	処分場	コンテナに掛かっているシートをはがす時	積み荷の木くずに、シートのゴムが引っ掛かり、そのゴムを引っ張ってはすそうしたら勢いのついた木がコンテナから落ちてしまった。	シートのゴムが引っ掛かってしまったら、無理に引っ張らずにどこが引っ掛かっているのかを確認して手でゴムを外す。	○				
8	8月の場内	手積み作業中	手の指がこわばったり、攣ったりした。熱中症の初期症状と感じた。	積み込み作業中もこまめに水分補給をする。			○		
9	地下直脱槽付近	汚水移送作業	作業後に閉めたマンホールがずれていた為、上を歩いた際に片足が落ちて転倒しそうになった。	マンホールの受側の溝を黄色に塗装し、蓋ズレが判るようにした。	○		○		
10	水処理北側シャッター	暗いので足元を確認して歩行していたところ	シャッターが途中まで閉まっていることに気付かず、頭をぶつけた。	シャッターは全開か全閉にする。		○	○		
11	1号炉	均質化炉バーナーをタイマツで点火時に	バーナー点火ボタンを押した時に、ボンというと共に炉内より風圧がきた。	防災面を着用して、正面に立たない。			○		
12	バイオ入口道路	フォークリフトで走行中	道路が冠水していた為、道路状況がわからず、陥没している箇所にタイヤがはまり、転落しそうになった。	陥没箇所の修理、冠水対策をする。最徐行して走行する。			○	○	
13	地下振動CV	大塊地金を処理時に	重くて腰痛になりそうになった。(約30kg)	重い時は、ホイストクレーンを使用する。	○		○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
14	ポリマータンク	ポリマーを作成時に	こぼれたポリマーで滑り転倒した。	こぼれたポリマーは、直ぐに掃除する。	○				
15	水処理室	硫黄沈殿槽下部を逆洗時に	洗浄水のホースが外れて、飛散した水を浴びた。	ホースバンドの固定を確認してから行う。	○				
16	ライフクレーン隔室内	床の4S時に	めくれている鉄板につまずき、転倒しそうになった。	床面の補修、足元確認する。				○	
17	Sバーナー床	バーナー交換時に	重くて腰痛になりそうになった。(約30kg)	作業姿勢に注意し、二人作業とする。	○		○		
18	NO2FP前	フォークリフト昇降時に	降雨中でゴムシートに雨が溜まり、滑って転倒しそうになった。	三点支持をして昇降する。			○		
19	工場内	場内点検パトロール時に	気温、湿度が高く、熱中症になりそうになった。	作業時間管理と水分補給を確実にを行う。			○		
20	保管庫	ゴミの番線をカッターではずす時	梱包用の番線を切断した際、番線が反発して目に当たりそうになりヒヤリとした。	足の踏み場所に注意する。近くまで寄らない。			○		
21	保管庫とピットの間の出入口	アームロールでコンテナを運ぶ時	ダンプが出入口近くを走っていて危なかった。	一時停止をする。			○		
22	焼却炉内にて	溶接作業中	防護服を着用しての作業だったため、体が汗で濡れており、溶接ホルダーを皮手で握ったらビリビリした。すぐに作業を停止した。	体が汗等で濡れている時はよく乾かしてから作業する。ゴム手袋を使用する。			○		
23	投入機	投入機からぶら下がった長物対応中	プッシャーが動いた際、炉内が正圧になり、投入機側に黒鉛と火の粉が飛んできた。	プッシャーの動くタイミングを見て作業する。			○		
24	場内(重油タンク付近)	歩行中	暑くて下を向いて歩いていたら、散水車にひかれそうになった。	確認してから歩く。歩道を作る。	○				
25	低温煙道内	エアピックでハツリ	エアピックのホースが外れて、ホースが暴れて体に当たった。	エアピックとホースの継ぎ目の締めを確認する。				○	
26	投入機	長いゴミを投入機に手で上げている時	ピットに携帯電話が落ちそうになった。	上部ポケットに入れない。	○				
27	投入機	はがれた鉄板修復中	パイプで指をはさみそうになった。	夜で暗かったので明るくなってから作業する。一人でダメなら二人以上で作業する。	○		○		
28	焼却炉内	炉内のメンテナンス	上段から下段に降りる際、足を踏み外して転落しそうになった。	足場の確保。隙間があるので足場板等を使用する。				○	
29	左保管庫内	重機で前処理後	重機キャビンから降りる際、右足をキャタピラ上に乗せたら、滑り、落下しそうになった。	足を乗せる位置と場所を確認する。手摺りをしっかりと握り、ゆっくりと降りる。	○				○
30	処分場	積んできた荷を降ろすため、シートをはがしている時	シートを収納し、荷台から降りる際に梯子に貼ってあった滑り止めテープが剥がれてしまい、落下しそうになった。	車両点検時だけでなく、滑り止めテープの劣化を発見したら、すぐに交換し、危険な作業とならないようにする。				○	

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
31	プラント内	歩いている時	配管のサポートに足をぶつけ、作業服が破れてしまった。	プラント内は鋼材で作られている場所が多く、ぶつけると怪我につながるため、足元や頭上近く見えにくい場所は、クッション材や注意喚起を施す。			○		
32	工場内 ドラム保管場	ドラム缶移送時	ドラム缶をおいてバックしようとしたら、後ろを走行中のフォークリフトと接触しそうになった。	後方の安全確認の徹底。	○				
33	オーバーピット 周辺	箱の取り替え時	フォークリフトが脱輪しそうになった。	フォークリフト走行位置の確認をする。	○				
34	プラント構内	重機作業	旋回時に作業員が作業範囲に侵入。	作業員の再教育。 予期せぬ行動の予測。		○			○
35	場内	フォークリフトで走行中	前を横切った作業員が急にUターンして戻ってきて接触しそうになった。	周囲の確認を徹底し、近くに作業員がいる時は安全な距離をとって走行する。		○			
36	場内	D/M(ドラム)移送中	D/M(ドラム)の陰から別のフォークが飛び出して来た。	視界が悪い個所ではクラクション等で合図した方が良い。			○		
37	会社敷地内にて	フォークリフトでドラム缶を搬送中に	クリッパーからドラム缶が外れ倒れそうになった。	スピードに留意しつつ、段差のある所ではより緩める。	○				
38	混練テント	重機アタッチメント交換時	アタッチメントの油圧ホースを締めている時、他の人が急に重機を動かしたため、接触しそうになった。	重機を動かす際、周囲に人がいない事を確認し、フォンを鳴らして動かすようにする。		○			○
39	プラント内	ドラムを運搬中	タイヤが滑って物にぶつかりそうになった。	床が汚れている場合は床をきれいに掃除すること。			○		
40	受入作業場	検品作業	ドラムを開ける際、暑さでドラム内の圧が高くなって、中身が噴出した。	ドラムを開ける前の圧抜き確認。 圧を抜ききってからドラムを開ける。			○		
41	BWFプラントA ピット前	リファインバース(フレコンの廃物)を運んでいる時	フォークリフトを運転中、工場見学をしている人達が見学用通路から外に出て、Aピットの前まで来ていて、普段は人がいないところにいた為びっくりした。	しっかり人がいないことを確認しながら走行する。 見学する人はしっかりルールを守る。	○	○			
42	プラント(入出)	高知向け製品のゴミ取り	ホイールローダに乗ってゴミ取り作業をしている際、上レバーを押し過ぎてオートに入ってしまった、上の配管にバケットが当たりそうになった。	レバー操作をする時はレバーに意識し、慎重に操作する。	○				○
43	工場外で作業中	ドラム開け作業中	他施設消火設備が誤作動し、スプリンクラーが起動した。	他部署の施設で、設置したばかりの設備だったため、停止手順等を知らなかったためあせってしまった。 他部署の施設であっても、習熟の必要性を感じた。				○	
44	水ピット前	ダンパーの誘導をしている時	なかなか発進しなかったため、確認しに行こうとしたら急発進してきた。	近づく時は運転手に合図をしてから近づく。	○				
45	No.5ピット前	ダンパー車両でピットに中身を降ろす時	ピット前の車止めが老朽化により、低くなっていたため、ダンパーの後輪が乗り上げかけた。	低くなる前に定期的に工事をを行い、高い状態を維持する。				○	
46	キルン	立ち上げ作業	メインバーナーにタイマツで直接火をつける際、火の勢いが強く、火傷しそうになった。	自動点火装置の導入。				○	

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
47	水ピット通路	10tダンパーでバック中	左が暗くて見づらかった。	通路を明るくする。			○		
48	階段にて(夜10時)	キルン内を点検しようとして階段を降りている時	かかとが滑り、しりもちをついた。	照明の設置と滑り止めの取り付け。			○		
49	キルン出口	キルン出口の燃え殻の鉄箱を交換する際	鉄板で観音開きの扉が風で閉まってきたしまい、フォークリフトに接触しそうになった。	扉が勝手に閉まってこないように、扉へチェーンを付けて固定できるようにするか、重めのカラーコーンなどを置いて閉まらないようにする。			○		
50	No.1ピット前	天井クレーンのバケットにコロンブス(廃物)を投入している時	ピットに転落しそうになった。	安全帯を着用する。足場を取り付ける。	○			○	
51	二次炉出口	詰まり除去	上部の詰まり除去作業をしている際に、高温の灰が落ちて来て、長そで作業着・ゴム手袋・軍手をしていたが、作業着が溶けて火傷をした。	肘ぐらいある耐熱用グローブ等を使用し作業する。	○		○		
52	キルン	立ち上げの際、メインバーナーにタイマツで火をつけた時	火がついた際のバックドラフトをくらい、火傷の原因となると感じた。	メインバーナー自体を自動点火にして、キルンの扉はむやみに開けないようにする。改善されるまでは防火面で顔だけでも守れるようにする。				○	
53	タンク V-12、V-13	V-12に廃油を張り込む際	V-12に廃油を張り込まなくてはいけないところ、V-13のV-2ラインを開けてしまいそうになった。	V-12、V-13は時間での張り込みをしているのでバルブひとつ間違えたら、漏洩してしまう危険がある。時間での張り込みではなく、数量管理の張り込みにして、万が一バルブを間違えても電磁弁が閉まり、漏洩の危険を防ぐことができる。	○			○	
54	煤塵コンテナ	煤塵をコンテナに入れる際	パレットの上に2段積みにして煤塵をコンテナの中に入れる際、トラックスケールの段差の振動で倒れそうになった時や実際に倒れてしまったことがある。	煤塵コンテナの場所の変更。トラックスケールの段差を完全に無くす。パレット上2段積みを止めて、1㎡の中に2袋入れてコンテナ内に保管する。				○	
55	工場施設内	明るいところから暗いところへバックで進入する際	中の状況が分かりにくくて物に当たりそうになった。	降りて確認した時にぶつかりそうなところを探す。後方確認者を一人つけて作業する。バックモニターに頼らず、目視と指差呼称をして、深呼吸して落ち着いて後退する。			○		
56	自社工場で	タンクローリーの積み荷を降ろすとき	タンク横に設置されている梯子を昇っている最中、雨で足元が滑り、墜落しそうになった。	昇降時は安全帯を使用し、3点支持を実施してはいるが、梯子に滑り止めテープを施し、雨天時はより慎重に昇降するように心がける。			○		
57	南作業所	コンテナを引き上げる時	フックに完全に引っ掛かっていなかった。確認したから事故が起きなかった。	必ず確認する。	○				
58	中間処理施設	荷降ろし	フレコンバッグのひもをフォークリフトの爪に掛けようとした時、ひもと爪の間に指が挟まりそうになった。	フレコンバッグのひもを掛ける作業者はフォークリフト運転手とコミュニケーション(大きな声等合図)を密に取る。また、フレコンのひもを手で触らない治具を検討する。	○	○			
59	当事業所内プラットホーム	重機(ホイールローダー)を運転時	後方にフォークリフトが入り込んできて、接触しそうになった。	(自分の)後方に入り込むことや、通過する場合、クラクションを鳴らすなどの合図が必要と思われる。			○		○

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
60	事業所内工場棟プラットホーム	一般市民持込ゴミの運搬中	他作業員が長尺物を運搬中、周囲を確認していなかった為、上半身にぶつかりそうになった。	慌てて作業をせず、一呼吸置いて、距離を保ち、必ず周囲を確認しながら作業を励行する。		○			
61	可燃バンカ搬出室にて	搬出トラックの誘導時	トラック誘導時にスピードが速い且つ自分の体のそばに距離をつめられ、接触しそうになった。	運転手にスピードを落としてもらうように伝える。 トラックとの間を空けて誘導する。	○	○			
62	プラットホーム内	プラットホーム内で水をまいている時	足が滑ってこぼりそうになった。	足元注意。 (水をまく時は滑りにくい靴を履く)			○		
63	手選別室で	コンベア上のゴミから不適切物を取り出す作業をしている時	傘の骨が作業者側に突き出ていた為、顔や目に当たりそうになった。	作業を行う時に視野を広くもち、早くに危険を回避すること。 (防護メガネやフェイスシールドの着用)			○		
64	ストックヤード	スプレー缶の穴開け	穴開け機でスプレー缶に穴を開ける作業で、スプレー缶がでてこなくなり、確認しようとのぞいたら、スプレー缶の液が噴き出してゴーグル越しに目の部分に直撃した。	このような場合、まず機械のスイッチを停止して、液が噴出しないようにする。 また、ゴーグル等、目の防具は必ずかけること。	○				
65	資源リサイクル施設	スプレー缶を機械で穴を開けている時	落ち口の滑り台のところに、スプレーの中液体でベタベタの物があり、缶が滑らなくなり、次の缶が詰まり、のぞいた時にシュッと出て顔にかかってしまった。	ゴーグルをちゃんとやること。 のぞかないようにして確かめる。	○		○		
66	プラットホーム	お客様の荷物の受け取り作業をしている時	小台貫の角に足がぶつかってしまい、家に帰って気が付いたら少し血がにじんでいた。	足元に充分気をつけて作業する。 (角にコーナーガードを取り付ける。)	○			○	
67	プラットホーム	一般受入れ	小台貫のコードカバーにつまずいて転びそうになった。	足元に注意して行動する。 (トラテープ等を貼るなど注意喚起表示をする。)	○			○	
68	お客様の荷物を下ろすプラットホームにて	粗大ゴミのタンスの長い板を運んでいた時	その日は風が非常に強くて、風にあおられてタンスの板をお客様の車に当てそうになりヒヤツとした。	風の強い時やいつもと違う時には、荷物の持ち方や角度に気をつけ、時には二人作業で無理せずに安全に作業する。	○		○		
69	プラットホームで一般客の受け入れ	荷物を降し終わった一般車両が退出した時	待機していた一般車両が何の指示も受けず進入してきた。 荷降ろしの客と接触しそうになった。	待機場所に「止まれ」の表示があるが、脇に「指示があつてから進入」と看板を設けたらよい。		○			
70	高速回転破砕室	高速回転破砕機に対して粗大ゴミの投入過多が発生し、その除去作業中(異物つまり)	高速回転破砕機内、異物つまり除去作業中、コンベアに残る粗大ゴミが一部落下した。 居た場所によっては直撃だったかも知れない。	重機操作者による粗大ゴミの投入過多が起因するものなので、重機操作者が粗大ゴミの投入量に細心の注意を払えば解消できる。		○			
71	施設裏手搬出室前	破砕可燃搬出待機中	不燃の搬出車両が破砕不燃前半の積込みが終了し、荷をならすため、ブレーキを行い、再び行うためバックしたが、待機していた可燃の搬出車両に気付かず、衝突しそうになった。	大型車が可燃の方でも導入され、搬出室周辺が狭隘することが多くなったので、どちらが優先なのか、瞬時に判断し、待機をしてもらう。 ならしなどによる後進、前進を行う際は、周囲に周知徹底、誘導員を配置し行う。			○		
72	機械選別室	機械選別室内移動中	機械選別室内移動中、足元にあったコードで転びそうになった。	足元にも注意しながら移動する。 コードで転びそうにならないようにまとめておく。	○		○		

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
73	工場内	丸太をまき割りしている時	丸太をまき割り機にセットしようとしたら、丸太から飛び出していた枝が、トランシーバーのコードに引っ掛かり、耳に付けていたイヤホンが外れ、その拍子に丸太を落としました。	イヤホンを耳に付けているとコードに引っ掛かりやすいので、まき割りの時は、トランシーバーを体から外し、スピーカーで聞こえるようにする。			○		
74	工場棟内搬入ヤード	ショベルローダーにて搬入物のかき上げ作業を行っている時	雨により搬入物から大量の水が流れ出しており、その濡れた路面の上で、ショベルローダーのブレーキをかけた際に横滑り及びブレーキの効きが悪く、ヒヤッとした。	路面が濡れている時は普段から気をつけているが、まずはある程度水を除去してから重機を使用する。			○		○
75	産業廃棄物処理場	処理を終えて運転中	油でペダルが滑った。	床面が汚れている処理場を利用したあとは、靴底の油をよく取り除く。			○		
76	高架水槽の上	槽清掃	梯子に墜落制止用器具を取り付けた状態で、梯子を上ってきた別の作業員に動線をあける為、開口したマンホールの反対側へ移動した際、墜落制止用器具のランヤードが伸びきった状態となり、その後、元の長さへ戻るための縮む力が体に加わり、マンホール側へ引っ張られ、槽内に転落しそうになった。	支持体にかけたフックと作業員の間には転落箇所がないように位置を取る。	○		○		
77	選別台	選別作業をしている時	引っ掛かったゴミを棒で取ろうとしたら、もっていかれてヒヤッとした。	必ず機械を止めて、周りをよく見て扱う。	○				
78	塵芥室	選別作業	ゴミの袋の中の串などによる怪我	結び目をしっかり持つ。	○				
79	塵芥室	現場でカーゴテナーを移動している時	現場から現場の通路で出会い頭になる死角になる所があり、トラックや壁に接触する可能性がある。	死角側の通路で車や人が来ていないか、事前に確認し、壁に接触しないように慎重に移動する。			○		
80	塵芥処理室	手袋をしなくて作業中	割れたガラス、ビン、缶、金属等で手に怪我をしそうになった。	分別・廃棄でもいろいろなものが一緒の袋に入っているので、必ず手袋をして作業をする。	○				
81	ゴミ処理室内	重量物を積んだカーゴテナーを移動させようとした時	カーゴテナーの両端を持って移動させたため、他のカーゴテナーとの間に手を挟みそうになった。	カーゴテナーを移動させる時は、両端ではなく、内側の部分を持って移動させる。	○				
82	塵芥処理室	作業をしている時	パルテナのブレーキを掛け忘れの上移動し、清掃作業員に接触しそうになった。	作業時は常にパルテナのブレーキを忘れずにかける。	○				
83	塵芥処理室	空き瓶を専用ケースへ詰め替え作業時	空き瓶に割れ物が混ざっていると詰め替えの時、怪我をするおそれあり。	ビニール袋から、詰め替えの時、中を確認せず不用意に手を入れて取り出しを行わないこと。 厚手の手袋を着用すること。	○				
84	塵芥処理室	廃棄物の入ったカーゴテナーを移動する際	押してカーゴテナーを移動すると、廃棄物が死角となり、人・壁等に接触しそうになった。	廃棄物の入ったカーゴテナーを移動する際は押すのではなく、引いて目視、安全確認を出来るようにする。	○				

	どこで	何をしているとき	何がどうした	改善すべき事項	不安全行動(本人)	不安全行動(他人)	不安全状況	不安全設備	重機作業
85	塵芥処理室	カーゴテナーを移動中	カーゴテナーを移動している時、いつもの場所、いつもの時間帯に工事に入っている人々が台車・道具類を車から降ろして、荷物を置いたまま人がいなくなりました。その時、陰から急に人が飛び出してきて、カーゴテナーに当たりそうになり、カーゴテナーの車輪を安全靴で止めて、事なきを得た。	毎日の決まった仕事の中で、注意点について、もう一度確認を心がけること。		○			
86	塵芥室	カーゴテナー運搬作業中	対人・対物に接触しそうになる。	カーゴテナー移動時は必ず引いて行う。回りを見ながら安全なスピードで作業を行う。	○				
87	塵芥室	分別作業中	お客様がゴミを入れた袋を載せた台車で来て、台車からゴミを持ち上げて指定の置場へ置く際に、台車が通路の真ん中に停止されているため、持ち上げる衝撃で台車が動き、他のお客様や作業員に衝突しそうになった。	お客様が台車を置いて、ゴミを置きに行く際は、通路の端へ停止していただき、ストッパーがあれば止めてもらうようお願いする。		○			
88	塵芥処理室	床清掃の後しばらくしてから	床に一部水気が残っていて、一寸滑ってヒヤリ。	今後、清掃終了後、何回も見回り点検を実施。			○		
89	塵芥処理室	カーゴテナーの移動中	古いカーゴテナーが倒れそうになった。	タイヤが古いので新しくする。				○	
90	塵芥室	カーゴテナーを動かす時	仕事を急ぐあまり、2~3台のカーゴテナーをまとめて動かしたところ、そのうちの1台のカーゴテナーのバランスを崩して倒しそうになった。	いくら仕事に追われても丁寧にカーゴテナーを1台、1台ずつ移動することで、危険を回避することが重要である。	○				
91	仕事場	可燃ごみ分別中	割れた瀬戸物・ガラスが手に当たり、ヒヤリとした。	慣れに注意。(厚手の手袋をする。)	○				
92	仕事場	計量中	台車に山積みしたダンボールが落下して思わずハッとした。	慣れに注意。	○				
93	可燃性粗大ゴミ 破碎機下	破碎機下でブリッジ(閉塞)した時、撤去した後	ドアを開けて出て来る時、鉄骨に頭をぶつける。前にも同じ事があったようでテープが貼ってあるが、疲れているとぶつけるかも知れない事を忘れてしまう。	危険な部分に反射テープ等を貼り付け、更に照明を当てる。	○		○		